



▲性別不問なデザインにしたという「ubusuna IZA prototype 2024」の服。シャツの台襟ボタンには山鹿の爆竹のボタンを使用



▲肥後和綿(写真左)を糸にし、浮浪雲工房(水俣市)の金刺宏子さんが機を織る(右)



▲古荘本店(熊本市中央区古川町)本社筋向かい側の「shop ubusuna | 熊本」



▲肥後和綿から手作業で作られた肥後木綿

24」を展示販売している。秋口には藍色やベインガラなどの色合いも採り入れたカジュアルなラインやジビエレザーの展開も計画している。(編集部・山岸千紘)

地域に

根差した素材で全国、そして世界へ

ファッションブランド

「ubusuna」ショップ開業

古荘本店



▲「ubusuna」の服を着用した古荘貴敏社長。店内の天井や机にはデザインコンセプトである文様「直弧文」柄の生地が飾られている

「花の香酒造の日本酒ブランド『産土』にインスパイアされ、ファッションブランド「ubusuna(うぶすな)」を立ち上げた。長く着続けることができる服、日本人の美意識を体感する服を目指すとともに、地元にある素材でよりよいものを創る「ブリコラージュ」もテーマにした」と(株)古荘本店(熊本市中央区古川町)の古荘貴敏社長。2月にショップ兼ギャラリーをオープンした。

同社は1877(明治10)年の創業、衣料品事業を皮切りに、傘下企業50社超、総従業員1万人の一大コンツェルンを築き、熊本経済界の源流ともいわれる老舗企業。現在、繊維卸・製造小売、IT機器・建築関連機材販売、携帯電話販売事業を展開する。「西南戦争後、古着の販売からスタートした経営の原点にも立ち返る。地域に根差した素材を生かし、地域の職人さんとともに作り上げたい。熊本・九州の良いものを、全国、そして世界に発信していきたい」と意気込む。同ブランドは、水俣産の和綿を使って再生した肥後木綿や水上村で栽培された藍を